

外来語動名詞の形態統語研究に向けて*

—範疇，語種，形態構造—

田 川 拓 海（筑波大学）

1. はじめに

本論文では，まだ研究の比較的少ない外来語動名詞を対象とした統語論・形態論研究の推進を目的として，田川（2016）の検討を中心に問題点と現象の整理を行う．外来語動名詞の定義は下記の通りである．

- (1) 外来語動名詞¹：外来語で「する」を付けて動詞として使えるもの
 - a. 自動詞：タイヤがパンクした.
 - b. 他動詞：太郎が資料をコピーした.

具体的には，1) 動（名）詞としての判定と自他の観点から田川（2016）の分類には修正が必要であること，2) 外来語動名詞の形態的，統語的振る舞いは二字漢語動名詞と似ており，この事実は動名詞の統語的な性質と形態構造の複雑さが単純な対応関係にないことを示していること，を明らかにし，外来語の形態統語論研究の観点から2つの接辞を取り上げ，どのような研究が可能か簡単に検討する．また，上記の検討を反映させた外来語動名詞のリストを示す．

2. 外来語動名詞の範疇と分類

2.1. 田川（2016）の分類

外来語動名詞に関しては，日本語研究に使いやすい語彙リスト・コーパス・データベースがまだ整備されていない（cf. 茂木（2016））．研究を目的していないもの（例：カタカナ語辞典）だと新奇な語彙に焦点が当てられやすいためか基本的な語彙への言及がなかったり，また辞書では自他など基本的な文法的性質について記述がないこともある．各語に関する情報の種類と量という点

では田中・中山（2014）が1つの理想であるが、これは日本語教育の参考書として作成されたものであり語彙が基本的なものに限られている。一方で動名詞に関する研究では個別の語に焦点を当てたものが増えてきている²が、もう少し大まかでも良いので全体的な分類があるのが望ましい。

このような状況において、田川（2016）ではある程度の量の外来語動名詞を対象に、自他の観点からの分類（自動詞タイプ、他動詞タイプ、自他両用タイプの3タイプ）を示している。田川（2016）で採用されている外来語動名詞の判定基準は下記の通りである。

(3) 田川（2016）の基準

- a. 実例や辞書による確認も行うが、基本的には筆者の内省により判断。
- b. 特定の分野でしか用いられていない語は除く³。
- c. 複合語の可能性のあるもの（例：プリントアウトする）は除く。
- d. 短縮の可能性のあるもの（例：インフレする）は除く。
- e. 原語での接辞を含むもの（例：トレーニングする（-ing）、カスタマイズする（-ize））については排除しない⁴。
- f. いわゆる和製外来語は排除しない。

具体的には下記のような語が挙げられている（田川（2016）：15-18の語彙リストより一部抜粋）。

(4) a. 【自動詞タイプ】

（要求が）エスカレートする，ゴールする，コミュニケーションする，ジャンプする，（値段が）ダウンする，チャレンジする，デビューする，（予定が）バッティングする，（タイヤが）パンクする，（デビュー作が）ヒットする，（歌手が）ブレイクする，リフレッシュする，...

b. 【他動詞タイプ】

（能力を）アピールする，（状況を）イメージする，（基準を）オーバーする，（賃金を）カットする，（紙飛行機を）キャッチする，（宿泊を）キャンセルする，（課題を）クリアする，（資料を）コピーする，（お菓子を）サービスする，（目覚まし時計を）セッ

トする, (値段を) チェックする, (新製品を) テストする, (ドアを) ノックする, (失言を) フォローする, (時計を) プレゼントする, (技術を) マスターする, (伝言を) メモする, (関係を) リセットする, (状況を) レポートする, ...

c. 【自他両用タイプ】

(新店舗が／を) オープンする, (新生活が／を) スタートする, (供給が／を) ストップする, (担当が／を) チェンジする, ...

このように対象を広く取ったことにより, 漢語系とは違い他動詞タイプが非常に多く, 自他両用タイプが少ないという傾向が見えてきたのが1つの成果と言える⁵が, 一方で次に挙げるような問題点もある。

(5) 田川 (2016) の問題点と検討のポイント

a. 動名詞の判定に関する問題

1. 単純事象名詞の疑いがあるものが入っている
2. まだ一般的な語彙として定着していないものが入っている

b. 自他の判定に関する問題

1. 語義の認定によって分類が変わるものがある

2.2. 外来語動名詞の判定

日本語における単純事象名詞 (影山 (1993)), すなわち「VNをする」の形でしか現れないものは動名詞とはひとまず別としておいた方が良く考えられる。「VNする」なのか「VNをする」の「を」が脱落したものなのかの判断は時に難しい⁶が, 可能性が高いものとして下記に示す語が挙げられる。

(6) 田川 (2016) には掲載されていない外来語で単純事象名詞の可能性
があるもの

- a. スポーツ・競技に関する語彙: サッカー, テニス, ボクシング, ゴルフ, スポーツ, ダーツ, ゲーム
- b. 催し物に関する語彙: オークション, キャンプ, キャンペーン, デモ, テロ, レクリエーション,
- c. 役割・職業に関する語彙: ボーカル, リーダー, オーナー, パート, ボランティア

d. 装着物に関する語彙：ネクタイ，マスク

(7) 田川（2016）のリストに載っているが（6）に分類される可能性があるもの

- a. スポーツ・競技に関する語彙：ダンス，パフォーマンス
- b. 催し物に関する語彙：セール，パレード
- c. 役割・職業に関する語彙：アルバイト，コーチ

また，一般的な語としてまだあまり定着していない（いわゆる新語，専門用語）のではないと思われるものについては，下記のようにまとめることができる。

(8) 田川（2016）のリストで一般的な語彙としてはまだ定着していない疑いがあるもの

a. 【自動詞タイプ】

（ボールが）アウトする，アジャストする，（ボールが）イレギュラーする，ガーデニングする，コミットする，ジャッジする，スクーリングする，ステイする，（パソコンが）スリープする，（ボールが）ネットする，ファイトする，フィニッシュする，ペイする，（ボールが）ホップする，リバースする

b. 【他動詞タイプ】

（論文を）アクセプトする，（読み手を）インスパイアする，（気になったものを）ウォッチする，（スイッチを）オフする，（AとBを）カップリングする，（資料を）カテゴライズする，（店を）クローズする，（判定を）コールする，（チャンネルを）サーチする，（論文を）サーベイする，（ボールを）シュートする，（ラケットを）スイングする，（情報を）スクリーニングする，（画面を）タップする，（商品を）ダンピングする，（お金を）チャージする，（ボールを）トスする，（輪郭を）トレースする，（ファイルを）ドロップする，（ゴロを）トンネルする，（花粉を）バリアする，（詳細を）ヒアリングする，（パソコンを）フォーマットする，（板を）プレスする，（肩を）ホールドする，（要求を）ポストする，（状況を）モニタリングする，（おいしいお店を）リサー

チする, (論文を) リジェクトする, (問題点を) リストする,
(先人を) リスペクトする, (生活用品を) リユースする

c. 【自他両用タイプ】

(道具が／を) スイッチする, (情報が／サイトを) リンクする

これらの取り扱いについては, 今後コーパスや複数の母語話者の内省による確認も必要であろう. 研究に有用な語彙リスト・データベースの構築を目指す上では, データを絞るよりはできるだけ広く語を収集し, 各語について主に用いられる分野などの情報を付与する方が望ましいのではないかと考えられる.

2.3. 自他の判定

田川 (2016) では自他の基準は単純に述語が目的語としてのヲ句を選択可能かどうかで判断しており, 自他研究にとって一般的な問題点が挙げられる⁷. 他動詞判定に関しては生起可能なヲ句に場所句や経路句が入っていないかという点が挙げられ, 「(坂を) ダッシュする」「(北海道を) ドライブする」等が検討対象になる. 一方で自動詞判定では二句を選択するものに準他動詞 (杉本 (1991)) が入っていないかどうかという問題があり, 「アプローチする」「キスする」等の検討が必要である.

またその他に, どの語義を認めるかによって自他に関するタイプが変わってくる語が存在するという問題が挙げられる.

たとえば, 田川 (2016) で自動詞タイプに分類されている「ヒットする」は一般的な語義とその例は以下のようにになっているが,

(9) ヒットする (自動詞タイプ)

- a. 自動詞 1: 11 枚目に出した CD シングルがヒットした.
- b. 自動詞 2: 287 件の用例がヒットした.

次に示すようにスポーツ用語としては, 「ヒットする」は他動詞として用いられている例が確認できる. (10a) はゴルフ, (10b) はボクシングに関する表現である.

(10) 「ヒットする」の他動詞の用例⁸

- a. 対して, ここで紹介したロブショットはクラブが下からボールを

ヒットしているのです。

(横田真一 (1970)『横田真一 連続写真で見る見る上達』)

- b. 若い挑戦者のパンチが顔面をヒットして，チャンピオンの右のまぶたが切れた。

(緒島英二 (1950)『テンカウントは聴こえない』)

このようにどの範囲の語義までを対象とするかによって，語そのものの判定だけではなく記述対象とする文法的性質も異なってくる可能性がある。

さらに，(10)の「ヒットする」は(9)の「ヒットする」をそのまま他動化したものとは言えないので，(10)を認めたとしても，「ヒットする」を自他両用タイプとするかどうかという問題もある。田川 (2016) で挙げられている自他両用タイプにも「車がバックする」「利益の一部をバックする」のように自他が単純な対応にないものがあり，これらをどのように取り扱うか検討する必要がある。

3. 統語的性質と形態構造の対応

3.1. 一字漢語動詞と二字漢語動詞

本節では，外来語動名詞の研究が漢語動名詞の研究にとっても有益であることを，統語的性質と形態構造の複雑さ (morphological complexity) の関係を例に示す。問題のポイント，基本的な記述は田川 (2015, 2016) ですでに示されているが，外来語研究の重要性については田川 (2016) で端的に触れられているだけなので改めて確認しておく。

まず基本的な事実として，一字漢語動詞 (例：熱する) と二字漢語動詞 (例：加熱する)⁹ には様々な体系的な違いがあることが分かっている¹⁰ (田野村 (2001)，三宅 (2010)，田川 (2009, 2015))。

形態的／音韻的な相違点としては，以下の3点が挙げられる。

- (11) 一字漢語動詞では「する」に振る舞いの違いが見られるが，二字漢語動詞ではそのようなことがない

- a. 活用がゆれるものがある (サ変とサ行五段¹¹)

属しない／属さない，属すれば／属せば，...

(cf. *愛しない／愛さない¹²，愛すれば／愛せば)

- b. 連濁する場合がある
論ずる, 応じる, ...
(cf. 関する / *関ずる, (功を) 奏する / *奏ずる / *奏じる)

(12) 同じ形態でも二字では促音化が起こらない

- a. 一字: 達する, 察する, 脱する, 没する, 熱する, ...
- b. 二字: 到達する, 観察する, 逸脱する, 陥没する, 加熱する, ...

(13) 語アクセント

- a. 判断します: ha¹ndan-si-ma¹su / 判断を: ha¹ndan-o
- b. 命じます: mei-ji-ma¹su / 命を: me¹i-o

(13) に示されている違いは, 二字漢語動詞では名詞の場合のアクセントが「する」と共起する場合でもそのまま保持されるのに対して, 一字漢語動詞では「する」と結合した場合には全体で一つの語アクセントを持つということである。

次に, 形態統語的な相違点を示す現象として下記の2点が挙げられる。

(14) 名詞化接辞「-方」テスト (影山 (1993))

- a. 勉強のし方 / *勉強し方, 蒸発のし方 / *蒸発し方, ...
- b. *製のし方 / 制し方, *付のし方 / 付し方, *感のし方 / 感じ方, ...
- c. 食べ方, 走り方, 消え方,

「-方」による名詞化において, 二字漢語動詞では「～のし方」という形で現れ, 「～し方」というように漢語形態素と「する」が隣接した形では現れないのに対して, 一字漢語動詞の場合は「～のし方」という形式が不可能であり, 「～し方」という形で現れなければならない。

次は尊敬語化を見る。

(15) 尊敬語化テスト

- a. ご推薦になった / *ご推薦しになった,
ご支持になり / *ご支持しになり,
- b. *お罰になった / お罰しになった, *お制になり / お制しになり,

- c. お食べになった, お消えになり,

ここで重要な対立点は、二字漢語動詞では「する」が現れてはならないのに対して、一字漢語動詞の場合は「お～しになる」と必ず「する」が現れるという点である¹³。

いずれの現象も、一字漢語動詞では漢語形態部分と「する」が密接な関係にあり合わせて1つの動詞のように振る舞うのに対して、二字漢語動詞では漢語形態部分と「する」が独立しているという特徴を示している。

田川 (2015) はこれらの体系的な差を両者が形成する統語構造とそこに見られる局所性 (locality) の違いから分析できることを示しているが、このような特性の違いは「一字」「二字」という形態構造の複雑さ (形態の数) と関係しているのだろうか。

3.2. 外来語動名詞の統語的性質

まず、形態構造の複雑さが関係しているという考えに疑問を投げかける事実として一字漢語動詞でもごく少数二字漢語動詞と同じ振る舞いを見せる (三宅 (2010)) ということがある。

(16) 二字漢語動詞と同じように振る舞う一字漢語動詞

- a. 損のし方 / *損し方
b. ??ご損になる / *ご損しになる
c. 損しなかった : so¹n-si-na¹katta / 損を : so¹n-o

しかし、そもそも一字漢語動詞自体の数が限られているため、これを例外と考えるかどうかについては判断が難しい。

ここで外来語動名詞の存在が重要になるのである。ここまでで取り上げてきた外来語動名詞の多くは含まれる形態の数は1つであるにも関わらず、振る舞いは二字漢語動詞と同じである。外来語動名詞でも確認することができる現象は下記の通りである。

(17) 外来語動名詞の特徴¹⁴

- a. コピーのし方 / *コピーし方, クラッシュのし方 / *クラッシュし方,

- b. コピーします : ko¹ pii-si-ma¹ su / コピーを : ko¹ pii-o

「-方」が付く際には「の」が入らなければならず，語アクセントは動詞の場合も名詞の場合と同じものが保持され，二字漢語動詞と同じように振る舞うことが分かる。

このように，漢語だけを見ていると一字漢語動詞と二字漢語動詞の見せる振る舞いの違いは形態構造の複雑さに起因していると見てもおかしくないが，外来語までを含めて動名詞全体で見ると，その対応は単純ではないということがわかり¹⁵，田川（2015）のような統語的分析が支持されることになる。

外来語動名詞についての研究は，これまであまり対象にされてこなかった語の記述・分析を進める意義があるだけでなく，研究が集中し多くの蓄積を残してきた漢語動名詞の記述・分析を見直すことにもつながるのではないだろうか。

4. 外来語と接辞

接辞という観点から見た外来語の研究もやはり少ないようである（cf. 林（2015））。

「接辞（外来語）＋基体（外来語）」という組み合わせでは接辞ごと借用されたという可能性が出てくるため，本節では異なる語種同士で接続される接辞を取り上げるという方法を提案したい。

4.1. 漢語接頭辞「再-」＋外来語

「再-」は非常に生産性の高い接頭辞であり，外来語動名詞に付く場合がある。

(18) 接頭辞「再-」が付く外来語動名詞

- a. 自動詞：再アクセス，再アタック，再チャレンジ，再デビュー，再ヒット，再フィーバー，...
- b. 他動詞：再アピール，再カウント，再シャッフル，再スキップ，再セット，再チェック，再テスト，再プッシュ，再レポート，...
- c. 自他両用：再アップ，再オープン，再スタート，再ストップ，...

これだけの例があれば小林（2014）等の漢語動名詞を対象にした研究成果を参照しながら体系的な語彙／形態／文法研究ができるのではないだろうか。たとえば、「再-」が付く動名詞に意味的な共通性はあるのか、意味的に付いても良さそうだが実際には難しい組み合わせ（例：再ミス）には何か要因があるのか、「再-」によって動名詞が表す事象の何が繰り返されるかというような観点が挙げられる。

他に外来語との組み合わせである程度の生産性が見込める接頭辞として「大-」があり、大クラッシュ、大ヒット、大フィーバー、大ブレイク、大リニューアル、等の例が挙げられる¹⁶。

4.2. 外来語接頭辞「フル-」＋漢語

次に、接辞自体が外来語であるものの例として、「フル-」を取り上げる。「フル」は形容（動）詞としても用いられるが、接頭辞としても生産性が高い。

- (19) フル [full] [形動] 限度いっぱいであるさま。十分であるさま。「才能を__に発揮する」「__回転」（『明鏡国語辞典』）

下記に示すように、漢語形態との組み合わせもある程度見つけることができる。

- (20) 接頭辞「フル-」が付く漢語動名詞

フル改造、フル解体、フル回転、フル加速、フル活用、フル稼働、フル参加、フル参戦、フル充電、フル出演、フル出場、フル装備、フル代表、フル動員、...

分析の観点としては、「フル-」が付く動名詞に意味的な共通性はあるのか、意味が似ている漢語接頭辞「総-」「全-」「満-」などとの類似点、相違点はあるか、といったものが挙げられる。

また、興味深い事実として、「フル-」が付くパターンでしか出てこない意味もある。

- (21) a. 難しい問題だったのでがんばって頭を 回転／フル回転 させた。

- b. 今年は仕事に育児にがんばって *回転／フル回転 した1年だった.

上の例で示しているように, 「休みなく働き続ける」という意味の「フル回転」は「フル-」を外して「回転する」のみで用いることはできない.

5. おわりに

5.1. まとめと課題

以上示したように, 語彙を収集するだけでも考えなければならない課題が多く大変だが, 豊かな体系を形成しているようであり, 外来語動名詞の研究にはチャレンジする価値が(必要も)十分にある¹⁷ と言えよう. また, 外来語動名詞の分析を進め比較することによって, これまで蓄積されてきた漢語動名詞研究の成果のどの部分が漢語に特有でどの部分が動名詞全体に通じることなのかを調べるのが可能になるという利点もある.

外来語動名詞の研究が進められてこなかった背景としては, 下記のような認識もあるのではないかと考えられる.

- (22) 動名詞自体は, 「コピー (する), テスト (する), 丸呑み (する) etc.」 外来語, 和語にもありますが, 大部分は漢語です.

(影山・斎藤 (2013) : 39, 注 5)

確かに漢語と比較すると数は少ないかもしれないが, 外来語動名詞は, 本当に数が少ない和語動名詞 (例: 恋, 旅, 涙, ...) とまとめて「大部分ではない」と言ってしまうほど少なくはない.

また, 幸い漢語動名詞研究の豊富な蓄積があるので, それらをうまく活用することによって, 外来語動名詞の研究をスムーズに進めることができるという期待もある.

5.2. 展望

語種と文法の関係という観点から見るとさらにいくつかの検討課題を考えることができる.

1 点目は複合形態における各形態の関係である. 二字 (以上) 漢語動名詞で

は形態構造が全体の文法的性質にも影響することがよく知られている。たとえば、下記に示すように「飲酒」はすでに内項が動名詞に組み込まれているために、文法的にヲ句を取ることが難しくなっている。

- (23) a. *昨夜、太郎はビールを飲酒しなかった。
b. 昨夜、太郎は飲酒しなかった。

(小林 (2004) : 94)

外来語動名詞でも田川 (2016) で取り上げられているように、複合的なものが存在する。

- (24) 複合的な外来語動名詞 (田川 (2016) : 19 をもとにデータを追加)
アウトソーシング, アウトプット, アップデート, インプット, ウォーミングアップ, オーバーヒート, オーバーラップ, カミングアウト, キャッシュバック, クールダウン, グレードアップ, グレードダウン, クローズアップ, ゲームオーバー, コールバック, コストダウン, サイズアウト, サイズアップ, サイズダウン, ズームアップ, セットアップ, ソフトランディング, タイムオーバー, ダウンロード, チェックアウト, トーンダウン, ドレスアップ, バージョンアップ, バックアップ, ヒートアップ, ピックアップ, フィードバック, フェードアウト, ブックマーク, ブラッシュアップ, ブラッシュバック, プリントアウト, ペイオフ, ライトアップ, ラストスパート, ランクアップ, リスクヘッジ, リストアップ, レベルアップ, ログアウト, ログイン, ロックオン, ...

複合語や句動詞がそのまま借用されたようなものも多いが、項-述語関係 (例: レベルアップ), 修飾関係 (ソフトランディング) のようにある程度のタイプ分けはできそうである。張 (2014) のような詳細な分類ができるほどの例が採取できるかどうかは現時点では不明であるが、部分的に漢語動名詞との比較ができる可能性はある。

2 点目として、特定の文法的環境への生起と語種の問題がある。特定の構文に生起できる動詞に語種による制限があることが知られており、たとえば英語では、ラテン系の語は不変化詞 (verb-particle) 構文、結果構文、二重

目的語構文に生起できず、逆に中間構文にはゲルマン系の動詞が生起できない(加賀(2001), Pesetsky(1995), Harley(2008), Takeshita(2015)など). 日本語でも、外来語と漢語で生起できる構文、文法環境に違いがあるのかという観点から従来の文法環境を見直すという手法が考えられる.

さらに、借用という観点にフォーカスすると興味深い現象がいくつか見られる.

たとえば、英語では前置詞あるいは不変化詞 (particle) であるものが、日本語では動名詞になっているものが一部ある.

(25) 前置詞あるいは不変化詞由来の可能性がある動名詞

アウト, アップ, イン, オーバー, オフ, ダウン, バック, プラス, ...

事象 (event) に関わるもののうちどれが動詞に含まれ、どれが前置詞等の他の要素として現れるかという観点から言語を類型化した Talmy (1991) による「動詞枠付け言語 (verb-framed language)」と「衛星枠付け言語 (satellite-framed language)」という対比との関係があるのではないかと推察される.

他にも、英語では典型的な他動詞である “hit” 由来の「ヒット」が動名詞としては自動詞が一般的な用法を持つといったこと¹⁸や、英語では形容詞 (あるいは前置詞) である “pending” が借用され保留するというような意味の外来語動名詞「ペンディングする」になっている¹⁹等の「ずれ」が散見される.

最後に、理論的な課題について簡単に述べておく.

田川 (2015, 2016) の分析で用いられている分散形態論 (Distributed Morphology) では、動詞や名詞のような基本的なものですら範疇未指定の要素 Root と素性の組み合わせによって形成され则认为る. Root は非常に小さい要素と考えられており、最低限どれぐらいの情報を備えているのかについては議論がある (Embick and Noyer (2007), Acquaviva (2009), Embick (2012), Harley (2014) 等).

語種に関する情報はいわゆる“語彙的”な情報であり、分散形態論でも Root が持っている想定するのが自然に思えるが、その一方で、語種に関する情報が文法的な素性のようなものであるとすれば、それは Root が持つ「最低限の情報」に含まれているのかというのは理論的な課題になり得る.

語種の情報が形態的、統語的な影響を持つとして、それは素性のような道具

立てを用いて捉えられるのか、それとも他の性質に（部分的に）還元できるものなのかというのはこの理論に限らない一般的な問としても成り立つものであり、本論文で見てきたような現象、観点が解明の糸口になる可能性も今後探っていきたい。

補遺 外来語動名詞のリスト（改訂版）

【自動詞タイプ】

アクセスする、（エベレストに）アタックする、アプローチする、（要求が）エスカレートする、キスする、（マシンが）クラッシュする、（道が）クロスする、ゴールする、コミュニケーションする、（重点が）シフトする、ジャンプする、（回線が）ショートする、ショッピングする、ステップする、ストライキする、（光が）スパークする、スピーチする、スピンする、（カバーが）スライドする、スリップする、セールする、セックスする、ターンする、（値段が）ダウンする、タックルする、チャットする、チャレンジする、ディベートする、デビューする、トークする、トライする、トレーニングする、（後輪が）パウンドする、（予定が）バッティングする、（タイヤが）パンクする、（デビュー作が）ヒットする、フィーバーする、（服が）フィットする、ブーイングする、（パソコンが）フリーズする、ブリッジする、（歌手が）ブレイクする、（家具が）マッチする、メールする、（体重が）リバウンドする、リフレッシュする、リラックスする、（話が）ループする、（機体が）ローリングする、ワープする、...

【自動詞タイプのうち単純事象名詞の疑いがあるもの】

アルバイト、セール、ダンス、パフォーマンス

【自動詞タイプのうちまだ一般的でない疑いがあるもの】

（ボールが）アウトする、アジャストする、（ボールが）イレギュラーする、ガーデニングする、コミットする、ジャッジする、スクーリングする、ステイする、（パソコンが）スリープする、（ボールが）ネットする、ファイトする、フィニッシュする、ペイする、（ボールが）ホップする、リバーする

【他動詞タイプ】

（成功を）アシストする、（やり方を）アドバイスする、（能力を）アピールす

る、(曲を) アレンジする、(曲を) アンコールする、(状況を) イメージする、
(状況を) インタビューする、(文章を) インデントする、(連休を) エンジョ
イする、(飲み物を) オーダーする、(基準を) オーバーする、(新しい依頼を)
オファーする、(要人を) ガードする、(患者を) カウンセリングする、(来場
者を) カウントする、(マシンを) カスタマイズする、(賃金を) カットする、
(失敗を) カバーする、(調子を) キープする、(ボールを) キックする、(紙飛
行機を) キャッチする、(宿泊を) キャンセルする、(課題を) クリアする、
(エアコンを) クリーニングする、(ボタンを) クリックする、(資料を) ク
リップする、(失敗を) ケアする、(新商品を) ゲットする、(全身を) コー
ディネートする、(資料を) コピーする、(感想を) コメントする、(商品を)
コラボレートする、(マシンを) コントロールする、(作品を) コンプリートす
る、(お菓子を) サービスする、(自分の名前を) サインする、(同僚を) サ
ポートする、(チーズを) サンドイッチする、(情報を) シェアする、(5年後
を) シミュレーションする、(名前を) シャウトする、(カードを) シャッフル
する、(画像を) ズームする、(高校生を) スカウトする、(手順を) スキップ
する、(新事実を) スクープする、(食材を) ストックする、(背中を) スト
レッチする、(洗剤を) スプレーする、(メールを) スルーする、(力を) セー
ブする、(目覚まし時計を) セットする、(服を) セレクトする、(全文を) タ
イプする、(坂を) ダッシュする、(画面を) タッチする、(値段を) チェック
する、(飛行機を) チャーターする、(お気に入りを) チョイスする、(売れ残
りを) ディスカウントする、(難しいテーマを) ディスカッションする、(花
を) デコレートする、(服を) デザインする、(新製品を) テストする、(ピザ
を) デリバリーする、(フルーツを) トッピングする、(北海道を) ドライブす
る、(コーヒーを) ドリップする、(選手を) トレードする、(自分の子供を)
ネグレクトする、(ドアを) ノックする、(子供を) ハグする、(試験を) パス
する、(商品を) パッキングする、(顔を) パックする、(近所を) パトロール
する、(資料を) ファイルする、(情報を) フィルタリングする、(余剰金を)
プールする、(失言を) フォローする、(電話番号を) プッシュする、(金額を)
プラスする、(髪を) ブリーチする、(花の絵を) プリントする、(ゲームを)
プレーする、(時計を) プレゼントする、(豆を) ブレンドする、(髪を) ブ
ローする、(手順を) プログラムする、(情報を) ブロックする、(新曲を) プ
ロデュースする、(活動を) ヘルプする、(参加を) бойкотする、(海老を)
ボイルする、(怪しい人物を) マークする、(賃金を) マイナスする、(技術を)

マスターする, (生活を) マネージメントする, ミスする, (素材を) ミックスする, (出演者を) メークする, (伝言を) メモする, (車を) メンテナンスする, (野菜を) ラップする, (川沿いを) ランニングする, (情報を) リークする, (機器を) リースする, (競争相手を) リードする, (若手を) リクルートする, (商品を) リコールする, (空き缶を) リサイクルする, (論文を) (関係を) リセットする, (配当を) リターンする, (レースを) リタイアする, (映像を) リプレーする, (新作を) リリースする, (要点を) レクチャーする, (作り方を) レッスンする, (状況を) レポートする, (ビデオを) レンタルする, (車を) ロックする, ...

[他動詞タイプのうち単純事象名詞の疑いがあるもの]

コーチ, パレード

[他動詞タイプのうちまだ一般的でない疑いがあるもの]

(論文を) アクセプトする, (読み手を) インスパイアする, (気になったものを) ウォッチする, (スイッチを) オフする, (AとBを) カップリングする, (資料を) カテゴリイズする, (店を) クローズする, (判定を) コールする, (チャンネルを) サーチする, (論文を) サーベイする, (ボールを) シュートする, (ラケットを) スイングする, (情報を) スクリーニングする, (画面を) タップする, (商品を) ダンピングする, (お金を) チャージする, (ボールを) トスする, (輪郭を) トレースする, (ファイルを) ドロップする, (ゴロを) トンネルする, (花粉を) バリアする, (詳細を) ヒアリングする, (パソコンを) フォーマットする, (板を) プレスする, (肩を) ホールドする, (要求を) ポストする, (状況を) モニタリングする, (おいしいお店を) リサーチする, (論文を) リジェクトする, (問題点を) リストする, (先人を) リスペクトする, (生活用品を) リユースする

[自他両用タイプ]

(給料が／を) アップする, (新店舗が／を) オープンする, (新生活が／を) スタートする, (供給が／を) ストップする, (担当が／を) チェンジする, (5つの作品が／を) ノミネートする, (車が／利益の一部を) バックする, (店が／を) リニューアルする, (時間が／を) ロスする, ...

[自他両用タイプのうちまだ一般的でない疑いがあるもの]
(道具が／を) スイッチする, (情報が／サイトを) リンクする

本論文では詳しく取り上げることはできなかったが、頭文字語の中にも一部動名詞として用いることができるものがある。これらも外来語動名詞の研究対象になる可能性がある。

[頭文字語動名詞]

DMする (Direct Mail), FAする (Free Agent, 野球等のプロスポーツ), KOする, OBする (ゴルフ), OKする, PRする, RTする (ReTweet, ツイッター) ,...

注

* 本論文は、国立国語研究所シンポジウム「日本語文法研究のフロンティア—形態論・意味論・統語論を中心に—」(2017年3月11日, キャンパスプラザ京都), Tsukuba Morphology Meeting 2017 (2017年6月26日, 筑波大学) における口頭発表をもとにしている。発表に際して多くの方からご助言を得ることができた。記して感謝したい。また、本研究はJSPS科研費 15K16758 の助成を受けている。

- 1 筆者は「する」が付いた場合に動名詞部分に名詞的な性質はないと考えているが、便宜的にこの名称を用いる (cf. 屋名池 (2011))。
- 2 山田 (2012), 茂木 (2015) など。辞書・コーパスに関する広範囲の調査としてボタン (2012) があるが未公開修士論文であり手に入れにくい。その一部はボタン (2017) として公開されている。
- 3 田川 (2016) : 14 では「スケールする」が例として挙げられている。
- 4 これらの接辞がどれくらい日本語において独立した要素として取り出せるのかわからないからであるが、「ウォームアップ／ウォーミングアップ」のような対立や、「コミカライズ (漫画化する)」のような和製外来語もあるので、個別具体的な検討が必要である。
- 5 ボタン (2017) においても、外来語動名詞では他動詞の割合が多いことが指摘されている (ボタン (2017) : 113, cf. 永澤 (2007))。

自動詞と他動詞の比率を見ると、漢語サ変動詞 (46%) と和語複合サ変動詞 (39.6%) より、外来語サ変動詞 (59.2%) では、他動詞が多いことが確認できる。漢語サ変動詞では、自動詞と他動詞がおおよそ同じ割合を占め、和語複合サ変動詞では、外来語サ変動詞と逆に、自動詞が最も多いことが分かる。

- 6 影山 (1993) では複数のテスト・現象が提案されているが、どれも判別の基準として用いることができるほど明確な現象ではないように思われる。複数のテストを組み合わせた基準の検討については今後の課題としたい。また、「を」の

- 脱落が起きにくい文法環境やスタイル／資料で確認ができないかという点についても検討が必要である。
- 7 その他にも、いわゆる同族目的語に当たるヲ句がないか、あるならその取り扱いをどうするか、自動詞に非対格／非能格といった下位分類を設けるべきかといった問題もある。
 - 8 以下実例で特に記述がないものはBCCWJから収集したものである。
 - 9 正確には、一字と二字“以上”という対立であるため、田川（2009, 2015）では前者を「短形漢語動詞」後者を「長形漢語動詞」と呼んでいるが、ここでは簡便のため「一字／二字」を用いる。
 - 10 以下の記述は田川（2015）による。
 - 11 さらに、サ変とサ行上一段／サ行下一段でゆれるものもある。詳細については田野村（2001）および三宅（2010）を参照。
 - 12 「愛する」が「愛さない」というようにサ行五段活用（＝sで終わる子音語幹動詞の活用）を見せることによって、影山（1993）は「愛する」を“ais”という単一の和語動詞である、としているが、一字漢語動詞全体を見ると「する」の活用を残しているものも存在する。
 - 13 二字漢語動詞であっても「お勉強」のように「お」が付くものもあり、この「お／ご」の選択は統語的な性質にそれほど関係していないのではないかと考えられる。
 - 14 尊敬語化テストはそもそも外来語形態への適用が難しいようである。
 - 15 外来語動名詞の振る舞いを踏まえた上で、漢語動詞については形態の数と統語的な性質に何らかの関係があるという分析は可能かもしれない。
 - 16 漢語動名詞に付く場合の分析については高橋（2015）を参照。
 - 17 最近の外来語研究の動向については陣内・田中・相澤（編）（2012）などを参照。
 - 18 佐野まさき氏の指摘による。
 - 19 “pending”が“ing”で終わっているという外見上の要因も、動詞として借用されることを助けているかもしれない。

引用文献

- Acquaviva, Paolo (2009) “Roots and lexicality in Distributed Morphology,” Alexandra Galani, Daniel Redinger and Norman Yeo (eds.), *York Paper in Linguistics* 10: 1-21.
- Embick, David (2012) “Roots and features (an acategorical postscript),” *Theoretical Linguistics* 38 (1-2) : 73-89.
- Embick, David and Rolf Noyer (2007) “Distributed Morphology and the syntax/morphology interface,” Gillian Ramchand and Charles Reiss (eds.), *The Oxford Handbook of Linguistic Interfaces*. 289-324, Oxford University Press.
- 張志剛（2014）『現代日本語の二字漢語動詞の自他』くろしお出版。
- Harley, Heidi (2008) “The Bipartite Structure of Verbs Cross-linguistically, Or, Why Mary Can't Exhibit John Her Paintings,” In T. Cristófaró Silva and H. Mello, (eds.), *Conferências do V Congresso Internacional da Associação Brasileira de Linguística*. pp.45-84. ABRALIN and FALE/UFGM, Belo Horizonte, Brazil.
- Harley, Heidi (2014) “On the Identity of Roots,” *Theoretical Linguistics* 40, 225-276.

- 陣内正敬・田中牧郎・相澤正夫（編）（2012）『外来語研究の新展開』，おうふう。
- 加賀信弘（2001）「意味役割と英語の構文」原口庄輔ほか（編）『語の意味と意味役割』，pp.89-181，研究社。
- 影山太郎（1993）『文法と語形成』ひつじ書房。
- 影山太郎・斎藤倫明（2013）「語種と語形成」『レキシコンフォーラム No.6』，pp.19-41，ひつじ書房。
- 小林英樹（2004）『現代日本語の漢語動名詞の研究』，ひつじ書房。
- 永澤済（2007）「漢語動詞の自他体系の近代から現代への変化」『日本語の研究』3-4，pp.17-32。
- 林慧君（2015）「日本語における外来語の類義接頭辞—「ミニ-」と「プチ-」の場合—」斎藤倫明・石井正彦（編）『日本語語彙へのアプローチ—形態・統語・計算・歴史・対照—』，pp.27-43，おうふう。
- 三宅知宏（2010）「“一字漢語スル”型動詞をめぐって」大島弘子・中島晶子・プラン・ラウル（編）『漢語の言語学』，pp.107-119，くろしお出版。
- 茂木俊伸（2012）「文法的視点から見た外来語—外来語の品詞性とコロケーション—」陣内正敬・田中牧郎・相澤正夫（編）『外来語研究の新展開』，pp.46-61，おうふう。
- 茂木俊伸（2015）「コーパスを用いた外来語サ変動詞の分析：「マークする」を例として」『文学部論叢』106，pp.83-95，熊本大学。
- 茂木俊信（2016）「外来語は文の中でどのように使われるのか」『日本語学』35（7），pp.24-32，明治書院。
- Pesetsky, David (1995) *Zero Syntax*. MIT Press, Cambridge, MA.
- 杉本武（1991）「二格をとる自動詞—準他動詞と受動詞—」仁田義雄（編）『日本語のヴォイスと他動性』，pp.233-250，くろしお出版。
- 田川拓海（2009）「分散形態論による動詞の活用と語形成の研究」筑波大学博士論文。
- 田川拓海（2015）「「する」と「できる」の具現に対する感循環異形態分析」『KLS 35: Proceedings of the Thirty-Ninth Annual Meeting of The Kansai Linguistic Society』，pp.109-120。
- 田川拓海（2016）「動名詞の構造と「する」「させる」の分布—漢語と外来語の比較—」庵功雄・佐藤琢三・中俣尚己（編）『日本語文法研究のフロンティア』，pp.1-20，くろしお出版。
- 高橋勝忠（2015）「接頭辞「大」について」西原哲雄・田中真一（編）『現代の形態論と音声学・音韻論の視点と論点』，pp.61-77，開拓社。
- Takehisa, Tomokazu (2015) “Where Morphological Complexity Matters,” *Proceedings of PACLIC* 29. 167-175.
- Talmy, Leonard (1991) “Path to realization : a typology of event conflation,” *Proceedings of the seventeenth annual meeting of the Berkeley Linguistics Society*, 480-519.
- 田中恵子・中山恵理子（2014）「カタカナ語を教えるために—カタカナ語（外来語）の教師用参考書—」〈<http://katakanago.web.fc2.com/>〉（2017年3月6日確認）。
- 田野村忠温（2001）「サ変動詞の活用のゆれについて—電子資料に基づく分析—」『日本語科学』9，pp.9-32。
- ビタン・マダリナ（2012）「機能形態素-ingを含んだ外来語の形態・用法の特徴—「～する」動詞化の可否をめぐって—」筑波大学修士論文。

- ビタン・マダリナ（2017）「外来語サ変動詞の自他の計量的分析」『筑波日本語研究』21, pp.106-114.
- 山田進（2011）「「ゲットする」と「タッチする」－外来語動詞の新用法」『聖心女子大学論叢』119, pp.170-147.
- 屋名池誠（2011）「第2章 文法論と語彙」斎藤倫明・石井正彦（編）『これからの語彙論』, pp.97-112, ひつじ書房.